教育研究業績書

2024年10月22日

所属： 看護学科　　資格： 教授　　氏名： 師岡　友紀

研究分野	研究内容のキーワード
臨床看護学、看護教育学	周手術期看護、急性期看護、臓器提供/臓器移植、がん看護、看護教育、患者心理、QOL (Quality of Life)
学位	**最終学歴**
博士（保健学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.学科内FDにおけるミニ講演	2021年6月	学部内のFDとして「臨地実習において障害のある学生の困りごとと支援について」のミニ講演を担当した
2.成人看護学Ⅱの授業担当	2020年4月1日～現在	担当者の一人として演習指導に携わった。学生の特性に合わせて主義の根拠や必要性を明示しながら指導に努めた。
3.大学院の授業担当	2020年4月1日～現在	「生涯発達看護学総論」「研究倫理特論」「看護マネジメント論」「研究理論」「研究理論探求」「生涯発達看護学B」を担当した。
4.成人看護学等の授業方法の工夫	2020年4月～現在	学生と双方向の情報交換ができるよう、毎回のミニレポートに対してフィードバックを共有する形式をとっている。講義内容に対するか学生の関心を高められるよう、臨床経験を題材に講義を展開できるよう工夫した。
5.成人看護学実習（急性期）の教育体制の整備	2020年4月～現在	分野責任者として、学生の実習指導および、担当教員である助教の指導を行っている。毎年、実習要項と記録の見直しを行っている。
6.大学院生の研究指導	2020年4月～現在	2023年度減じ、修士課程1名の主指導および博士課程学生1名の副指導を担当している。これまで、2020年度は修士3名の副査、2021年度は修士3名の副査、2022年度は修士2名の副査を行った。2023年度は博士院生1名、修士1名の主査を担当している。
7.博士前期課程（修士課程）大学院生の研究指導　※前任校	2012年8月1日～2020年3月31日	修士課程学生を対象としたゼミで、テーマ検討・研究計画・分析・論文作成など、すべての過程において指導や助言を行った。また、文献検索および文献クリティークに関して講義を行った。2018年4月より1名の修士課程学生の研究の指導に主指導者として携わった。
8.学部生に対する情報関連科目の講義演習の実施　※前任校	2011年4月1日～2012年7月31日	学部1年生を対象とした必修科目「情報活用基礎」の一部を担当した。情報機器の使用法および、電子メール・レポート作成・プレゼンテーション等、大学生として必須の情報関連の知識を講義するとともに、演習を行っていた。課題においては、個々の学生にフィードバックを行い、双方向のやりとりを工夫した。
9.学部生の卒業研究の指導	2007年10月1日～現在	毎年2～6名の学部生の卒業研究の指導を行っている。学生の興味関心を生かしたテーマ設定を行うとともに、学会発表ができるレベルの研究となるよう指導を行い、論文化として発表できた学生も数名いる。また、他の教員との合同ゼミにおいて、計画書の書き方に関する講義や、研究への指導や助言に携わった。
10.学部生に対する看護過程演習の指導	2007年4月1日～現在	成人期にある患者の看護を学べるよう、ペーパーペイシェントを用いた事例演習において、主担当または副担当として指導に携わっている。ビデオを用いてイメージ化を図るとともに、事例に対する具体的なアセスメント例を提示し、学習目標が明確化できるよう工夫している。周手術期、慢性期いずれも主担当教員として関わった経験がある。
11.学部生に対する「成人看護学」の講義	2007年4月1日～現在	成人期にある患者、なかでも急性期/周術期にある患者の看護について講義を行っている。授業スライドは、

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		クラウド環境に提示し予習復習を促している。また、毎回の授業でミニレポートを実施し、学生の質問や意見、感想を集約することで、学生のニーズをとらえ、それを反映した授業を心がけている。試験においては、事前に「試験の傾向と対策」を提示し、学生が自己学習を進めやすいよう工夫を行っている。
12.学部生に対する急性期関連演習の運営　※前任校	2004年4月1日～現在	十二誘導心電図測定、人工呼吸器、気管挿管、一次救命処置など急性期に必要とされる看護技術演習を主担当として運営した。種々のモデルを用いて体験から学べるよう工夫した。 また、大阪大学医学部附属病院の看護師と連携し、学生が急性期関連技術の必要性を実感しながら演習に取り組めるよう工夫した。解剖見学実習の運営にも携わった。
13.学部生に対する臨地実習指導　※前任校より	2004年4月1日～現在	成人期にある患者の看護、特に周術期にある患者の看護に関する臨地実習指導を中心行っている。病棟と連携しながら、個々の学生の特性に合わせた指導を検討し、看護や指導内容をできるだけ言語化して伝える工夫をしている。また2016年より手術室実習の企画・実施した。数年間、慢性疾患患者の実習指導も行っている。
2 作成した教科書、教材		
1.臨地実習に関する健康調査票の作成	2021年7月～現在	臨地実習委員のメンバーとして、学生の臨地実習前の健康調査票のテンプレートの策定に関わった。
2.インシデント報告体制（要項）の整備・インシデントレポートテンプレート	2021年4月～現在	臨地実習委員会のメンバーとして、臨地実習時のインシデント報告体制の改訂に携わるとともにインシデントレポートのテンプレートの変更案を作成し改訂に取り組んだ。
3.心電図に関する国家試験対策の講義動画	2021年2月	学部4年生の国家試験対策として、動画を作成した。
4.感染対策に関わる実習学生用動画	2020年9月	実習学生が着実に感染管理できるよう、事前学習としての動画資料を作成した。
5.術後観察場面の動画学習教材の開発　※前任校	2019年7月	術後観察に関する知識も経験も十分ではない学部生に対して、できるだけ場面と観察技術のイメージ化を図れるよう、動画教材を作成した。術後観察における手順と目的、実施の根拠についてワークシートを作成し、それに基づき説明的な動画素材を作成した。
6.CHARM Padの開発　※前任校	2012年12月～2020年3月	大阪大学産業科学研究所教員と共同し、iPadに搭載できる術後観察技術およびフィジカルアセスメントに関する、自己学習アプリの開発を行った。現在も改変をすすめ、学生たちが術後観察やアセスメントに必要とされる知識と目的を系統的に学べるように配慮した。
7.臨地実習における感染管理・インシデント対応　※前任校	2011年4月1日～2020年3月	学科内の感染対策委員として臨地実習における感染管理に関する学生および教員用マニュアルを作成した（2011～2014年）。また、専攻内の実習ワーキング委員としてインシデント対応時の学生/教員用のマニュアルを作成した（2013～2015年、2016～2017年）。
8.看護過程演習のアセスメント事例作成　※前任校より	2009年4月1日～現在	学部生に対する看護過程演習において用いる、周術期患者のアセスメント事例の作成や改変を、主担当または副担当として行っている。事例を作成することで、学生に対する指導の在り方や方向性を教員間で共有することにつながり、指導を分担しながらも目標達成しやすい環境につながっている。
9.術後スーツの開発　※前任校	2009年4月1日～2011年3月31日	術後患者に直面した経験がない学生たちに、看護師として患者の状況に配慮した観察が実施でき、かつ、患者側の状況を体験できることを意図し、担当教員で協働し、模擬患者に装着するスーツを開発した。このスーツは、現在、坂本モデルにて商品化され販売されている。
10.実習要項・実習記録用紙の改訂　※前任校より	2006年4月1日～現在	毎年、実習要項および実習記録用紙の作成や見直しを、主担当または副担当教員として行っている。2017

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		年度に実習体制を改変した際には、新たな実習に向けた施設との調整や説明において、中心的な役割を担った。2019年度における改変の際にも、他の教員と共同し、要項の改訂を行った。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.大阪大学招へい教員	2023年4月1日～2024年3月31日	移植看護に関する講義を担当している。
2.大阪大学招へい教員	2022年4月1日～2023年3月31日	移植看護に関する講義を担当している
3.大阪大学招へい教員	2021年4月1日～2022年3月31日	大阪大学の招へい教員として講義を実施している。
4.大坂大学招へい教員	2020年7月1日~2021年3月31日	大阪大学の招へい教員として講義を実施した。
4 その他		
1.学部7期生の担任	2021年4月～現在	2021年度は「初期演習Ⅰ・Ⅱ」を担当した。また、課題のある学生への指導や支援を行っている。
2.卒業演習担当学生に対する進路相談等	2020年4月～現在	2020年度3名、2021年度6名の卒業研究担当学生の進路相談に応じた。学生たちが自身に合った進路選択ができ希望通りの就職先での内定が得られるよう、志望書作成の指導、面談指導など行った。
3.SSH授業の実施	2020年4月～2022年3月	附属高校の学生に対し「感染対策実習」を行った。2020年度は2月、2021年度は4月に実施した。
4.学部生の担任　※前任校	2013年4月1日～2017年3月31日	学部生およそ40名のクラス担任として、入学から卒業まで4年間、関わった。新入生研修の運営や、学生の学習に関する相談や困りごとの対応、進路相談等の対応を行った。課題を抱える学生に対しては、他のクラス担任や学生支援委員の助言を受けながら、関わる教員に対して学生の状況を情報共有し、よりよい関わりにつながるよう努力した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.看護師免許	2000年4月	第1074470号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.クリニカルスキルスラボプロジェクトメンバー	2022年4月～現在	
2.西宮市保健所業務支援	2021年8月～2023年8月	西宮市保健所の業務支援に携わった。
3.職域接種における新型コロナワクチン接種業務	2021年8月	新型コロナワクチンの接種担当看護師として業務に携わった。
4.まちの保健室プロジェクトメンバー	2020年4月～2023年3月	2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大によりほとんど活動がなかった。2021年度は企画運営委員として、運営方法等を検討している。
4 その他		
1.看護学部学生委員会委員	2023年4月～現在	
2.看護学研究科広報入試担当	2022年4月～現在	
3.大阪市内高校への出前授業（入試広報関連）	2020年10月	高校生を対象に出前授業を行った。
4.看護学部看護学ジャーナル編集委員会委員	2020年4月～現在	看護学ジャーナルの編集委員として編集に関わる業務に携わっている。
5.看護学部臨地実習委員会委員	2020年4月～現在	実習計画管理、実習指導者運営委員会・研修会の運営ワーキング、感染対策ガイドライン改訂、インシデント報告体制の再検討、健康調査票の策定、関西ろうさいワクチン接種に関するとりまとめ業務、健康調査票の策定等、種々の実習関連業務に携わっている。
6.看護学部カリキュラム検討担当	2020年4月～2021年3月	2022年度新カリキュラムへの移行に向け種々の業務を行った。
7.看護学部看護自己評価担当	2020年4月～2021年3月	本学部の自己点検・評価のとりまとめと点検に携わった。
8.オープンキャンパス・高校への出前授業など広報活	2020年4月～	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
動 9.大阪府看護協会倫理委員会委員　※前任校	2018年5月～2020年3月	学内の持ち回り業務として大阪府看護協会の実施する委員会研究の倫理審査を行った。
10.大阪大学看護学雑誌編集委員会委員　※前任校	2018年4月～2020年3月	学科内の役割の一つとして大阪大学看護学雑誌の編集委員として編集に関わった。
11.立命館大学（元大阪大学産業科学研究所准教授）の來村徳信教授の研究室学生の研究に関する助言	2017年4月～現在	看護師の持つ知識構造に関する研究に関して、看護専門家として助言を行い、内容を監修した。
12.連携7大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン国際シンポジウム実行委員　※前任校	2014年8月	シンポジウム実行委員の一人として運営に携わった
13.大阪大学医学部附属病院キャリア開発センター講師　※前任校	2008年8月	臨床の看護師に対する講義と演習を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.ケアを可視化！中範囲理論・看護モデル　事例を読み解く型紙	共	2021年3月	南江堂	編集：荒尾晴惠 臨床事例と看護師の分析事例を挙げながら、フィンクの危機モデルを臨床にどのように活用可能か記述した。 著者：師岡友紀 「危機理論（フィンクの危機モデル）」 72-85頁
2.事例で学ぶ疾患別看護過程Vol.1	共	2020年9月	学研メディカル秀潤社	総監修：瀬戸奈津子・菅原美樹 以前にNursing Canvasの記事として執筆した内容を出版社依頼により書籍用に推敲修正した。 著者：師岡友紀 「変形性膝関節症～人口膝関節置換術後の事例～」 233-261頁
3.ナーシング・グラフィカ　EX　疾患と看護⑨	共	2020年1月	メディカ出版	編集：苛原稔　渡邊浩子 婦人科疾患（子宮頸がん、子宮体がん、子宮筋腫等）に関わる看護を概説した 著者：師岡友紀 ■婦人科／乳腺科で行われる主な治療・処置と看護 「婦人科の手術　婦人科の手術を受ける患者の看護」87-91頁 「子宮の疾患　子宮筋腫　子宮筋腫患者の看護」177-178頁 「子宮頸がん　子宮頸がん患者の看護」188-192頁 「子宮体癌　子宮体癌（子宮内膜がん）患者の看護」199-201頁 「子宮頸がん患者の看護」329-334頁
4.がん患者の症状まるわかりBOOK	共	2018年7月	照林社	編著：田村和夫、荒尾晴惠、菅野かおり がん患者の看護に関わる看護師（特に新人や経験が浅い看護師）を対象とした書籍で、患者の持つ症状に関して速やかに重要な知識を確認できる書籍である。 以下に示す2つの症状を執筆した。 著者：師岡友紀 「卵巣欠落症状」280-285頁 「創部痛」402-405頁
5.新体系看護学全書　経過別成人看護学②　周術期看護	共	2017年12月	メヂカルフレンド社	編著：明石惠子，嶌田理佳 看護学生を対象とした教科書である。以下に示す術後患者の看護において重要な知識について執筆した。 著者：師岡友紀 ■術後患者・家族の看護 　機能低下からの早期回復と術後合併症対策 「呼吸機能」151-155頁 「消化吸収機能」163-165頁 「排便機能」166-170頁 「脳神経・感覚機能」175-179頁 「性・生殖機能」179-180頁 ■術後患者・家族の看護 「疼痛対策」　181-188頁 「感染対策」　189-195頁

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
6.基礎と臨床がつながる疾患別看護過程	共	2017年9月	学研メディカル秀潤社	■基礎疾患のある患者の周術期看護 肥満・やせ　475-482頁 編者：菅原美樹、瀬戸奈津子 看護学生向けの看護過程事例集である。先だってNursing Canvasに書き下ろしたものを、出版社の依頼により書籍化に向け推敲を重ね執筆した。 監修：瀬戸奈津子・畑中あかね 著者：師岡友紀
7.実践へつなぐ看護技術教育	共	2006年9月	医歯薬出版株式会社	「子宮体がん」115-146頁 編者：阿曽洋子、奥宮暁子、鈴木純恵、藤原千恵子 臨地実習において看護技術を実践する意義について、共著者の指導を受けながら、以下の単元を執筆した。 著者：師岡友紀，奥宮暁子 「看護技術を育成する看護教育　成人看護学　看護実践からの学び　外科系病棟-周手術期」 89-94頁
2 学位論文				
1.生体肝移植ドナーのQuality of Life尺度の開発	単	2012年9月	大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程 博士学位論文	生体肝移植ドナーのQOLについて、その構造を明らかにするとともに尺度を開発した研究である。生体肝移植ドナーの面接調査を予備調査として、質的帰納的に分析した結果をふまえて尺度を作成し、国内5施設の協力を得て大規模調査をい、尺度の信頼性と妥当性の検討を行った。家族のために手術を受けたという生体ドナーに特有の尺度を開発できた。
2.退院時における患者のInformation Needs	単	2004年3月	大阪大学大学院医学系研究科博士後期課程 修士学位論文	患者の持つ情報へのニーズに関する、質問紙法を用いたた実態調査である。患者はいずれの情報も知りたいというニーズが高いことが明らかになった。そうした中でも、背景要因による差異が得られ、年代の高い患者、医師に治療決定を委ねたい患者、不安のある患者は情報を必要とする程度が低いことが示された。
3 学術論文				
1.術後早期の婦人科がんサバイバーの支援ニーズの実態	共	2023年3月	大阪大学看護学雑誌，29(1)，p1-8.	間城絵里奈，山本瀬奈，辰巳有紀子，師岡友紀，荒尾晴惠
2.天疱瘡・類天疱瘡患者の日常生活における困難感	共	2022年12月	日本看護科学会誌　42，p365-374.	種村智香，布谷麻耶，師岡友紀，川端京子，鶴田大輔，橋本隆
3.脳死下臓器提供の意思決定に至るまでの家族に対する看護実践		2021年12月	移植 56 巻 3 号 p. 283-291 DOI https://doi.org/10.11386/jst.56.3_283	脳死下臓器提供における家族に対する看護実践を明らかにした研究。 主指導者として関わった。 野村 倫子，師岡 友紀，荒尾 晴惠
4.行為知識の状況適応的な目的指向構造化と看護における応用（査読付き）	共	2021年9月	人工知能学会投稿論文誌 36(4)，1-16	概要：術後観察に関する教材を開発し、その評価を行った結果を論文として成果発表した。 著者：來村徳信、中條亘、笹島宗彦、師岡友紀、辰巳有紀子、荒尾晴惠、溝口理一郎 本人担当部分：題材となっている教材の開発、調査と分析、最終論文の確認等
5.Fatty liver disease in living liver donors: a single-institute experience of 220 donors	共	2021年8月	Transplant International 34 (11) , 2238-2246 doi.org/10.1111/tri.14005	共同研究者として参加した研究成果の発表である。生体肝移植ドナーの術後の脂肪肝の発症率および関連要因を明らかにした。 著者：Wen Fang, Momoko Noda, Kunihito Gotoh, Yuki Morooka, Takehiro Noda, Shogo, Kobayashi, Yuichiro Doki, Hidetoshi Eguchi, Koji Umeshita. 本人担当部分：研究計画立案、データ収集、分析への助言
6.北摂地域の民間施設におけるＡＥＤ（自動体外式除細動器）の 管理状況の実態（査読付）	共	2021年3月	大阪大学看護学雑誌 27(1)，18-25	北摂地域のAEDを保有する施設を対象にアンケート調査を実施した結果を発表した。卒業研究の指導論文。 著者：中井千夏、師岡友紀 本人担当部分：研究計画全般の指導、分析及び論文作成指導
7.がん患者における緩和ケア開始時期の認識と関連要因（査読	共	2021年2月	Palliat Care Res 2021 16(1)，35-43	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部の成果発表である。 著者：竹井 友理,山本 瀬奈,師岡 友紀,南口 陽子,畠山 明子,辰巳有紀子,荒尾 晴惠

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
付）				本人担当部分：データの入力、分析、最終論文の確認
8. 外来化学療法中のがん患者が抱く家族への負担感とその関連要因（査読付）	共	2020年4月	Palliative Care Research 15(2), 91-99	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部の成果発表である。 著者：青木 美和，南口 陽子，畠山 明子，師岡 友紀，辰巳 有紀子，中村直俊，荒尾 晴惠、 本人担当部分：データ分析、論文作成時の助言
9. 手術医療における患者と家族のエンパワメント	単	2019年9月	日本手術医学会誌 40(2), 87-90	学会のパネリストとして講演した内容を論文化したものである。 著者：師岡友紀 本人担当部分：執筆全般
10. Long-term donor quality of life after living donor liver transplantation in Japan （査読付）	共	2019年5月	Cinicai Transplantation 2019 Jun;33(6): e13584. doi: 10.1111/ ctr.13584.	生体肝移植ドナーを対象とした、術後のQOLの調査である。国内5大学の共同研究であり、生体肝移植ドナーのQOLの評価においては、包括的尺度および著者らが作成した疾患特異的尺度を用い、尺度の特性と得られた結果を考察した。 著者：Morooka Y, Umeshita K, Taketomi A, Shirabe K, Yoshizumi T, Yamamoto M, Shimamura T, Oshita A, Ohdan H, Kawagishi N, Hagiwara K, Eguchi H, Nagano 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
11. 大学生の一次救命処置に関する意識の実態 （査読付）	共	2019年3月	大阪大学看護学雑誌 25(1), 64-72.	一般大学生を対象とした質問紙調査で、一次救命処置に関する知識、不安、自信の程度を評価し、それらの関連性を検討した。卒業研究の論文発表であり、研究実施から論文作成に至る指導を行った。 著者：北濱生也，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
12. 救急看護認定看護師の考える脳死とされうる状態の患者の家族へのケアの実態と困難 （査読付）	共	2019年3月	大阪大学看護学雑誌 25(1), 73-80.	救急看護認定看護師を対象とした質問紙調査で、脳死とされうる状態の患者の家族に対するケアの実態と困難を明らかにした。卒業研究の論文発表であり、研究実施から論文作成に至る指導を行った。 著者：野村倫子，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、論文作成、すべての過程における指導
13. 発達障害またはその傾向がある看護学生に対する臨地実習上の支援の実態と教員の支援の妥当性に関する認識 （査読付）	共	2019年3月	大阪大学看護学雑誌 25(1), 81-88.	看護教員を対象とした質問紙調査である。近年、増加の一途をたどる発達障害またはその傾向がある看護学生に対して、看護教員はどのような支援を行っているか実態を明らかにし、合理的配慮の在り方について考察した。研究費を得て実施した研究で、大阪大学キャンパスライフ健康管理支援センターの教員と共同して行った。 著者：師岡友紀，望月直人，荒尾晴惠 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
14. 小児生体肝移植においてドナーとなった親の経験のプロセス （査読付）	共	2017年9月	移植 52(2-3), 204-211.	小児生体肝移植においてドナーとなった親を対象とした研究で、面接調査を通して対象の経験を質的帰納的に明らかにした。 著者：武内紗千，萩原邦子，梅下浩司，上野豪久，吾妻 壮，師岡友紀，藤原千恵子 本人担当部分：研究計画立案時と論文投稿時の助言
15. 患者さんの全体像がみえる　疾患別看護過程（第1回）変形性膝関節症　人工膝関節置換術後の事例	単	2017年3月	Nursing Canvas 5(4), 75-103.	依頼原稿であり、看護学生向けに執筆した。変形性膝関節症で人工膝関節置換術を受けた患者の事例をもとににして、アセスメントや問題抽出、計画立案の具体例を紹介した看護過程展開の解説である。 著者：師岡友紀 本人担当部分：執筆全般
16. 手術看護認定看護師が考える手術看護のやりがい （査読付）	共	2016年11月	手術医学 37(3), 216-218.	手術看護認定看護師を対象とした質問紙調査である。手術看護のやりがいを明らかにするとともに、背景要因等による差異を量的に検討した。卒業研究の論文発表であり、研究実施から論文作成に至る指導を行った。 著者：藤田安沙貴，師岡友紀，梅下浩司 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、論文作成すべての過程における指導
17. 病棟から手術室へ異動となった看護師が抱える困難 と支援方法についての検討	共	2016年11月	手術医学 37(4), 323-325.	病棟から手術室へ異動となった看護師を対象として、異動後の困難について語りを得た面接調査の結果を、質的帰納的に分析した研究である。修士論文の研究の一部の成果発表である。 著者：小野恵理佳，師岡友紀，梅下浩司，安藤昌代，南正人

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
（査読付）				本人担当部分：面接結果の分析
18.患者さんの全体像がみえる疾患別看護過程（第5回）子宮体がん　単純子宮全摘出後の事例	単	2015年7月	Nursing Canvas 3(8), 47-78.	依頼原稿であり、監修のもと看護学生向けに執筆した。子宮体がん患者で手術後の事例をもとにして、アセスメントや問題抽出、計画立案の具体例を紹介した看護過程展開の解説である。 監修：瀬戸奈津子、畑中あかね 著者：師岡友紀 本人担当部分：執筆全般
19.救急看護認定看護師の理想と実際の差異について（査読付）	共	2015年3月	大阪大学看護学雑誌 21(1), 15-20.	救急看護認定看護師を対象とした質問紙調査を行い、認定看護師となる以前に抱いていた理想と実際の差異について明らかにした。卒業研究の論文発表であり、研究実施から論文作成に至る指導をすべて行った。 著者：志田 瑶，師岡 友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、論文作成すべての過程における指導
20.Perceptions of transplant surgery among living liver donors in Japan （査読付）	共	2014年12月	Progress in Transplantation 2014, 24(4), 381-6. doi: 10.7182/pit2014400	生体肝移植ドナーを対象とした調査の自由記述部分の分析である。内容分析を行った。記述された内容を質的帰納的に分類し示すとともに、記述数をカウントし、背景要因による差異に関して量的な検討を行った。 著者：Morooka Y, Umeshita K. 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
21.生体肝ドナーの長期QOLについて （査読付）	共	2013年9月	Quality of Life Journal 14(1), 99-109.	生体肝移植ドナーを対象としてQOLを測定するため開発した尺度を用いた分析結果を報告した。背景要因による差異を検討することで、生体肝ドナー特有の課題を見出し支援の方向性を示唆した。 著者：師岡友紀，梅下浩司 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
22.Development and Analysis of the Reliability and Validity of a Living Liver Donor Quality of Life Scale （査読付）	共	2013年7月	Surgery Today 2013, 43(7), 732-40. doi: 10.1007/s00595-012-0476-2.	家族のために手術を受けたという生体肝移植ドナーに特有のQOL尺度を開発し、信頼性と妥当性を検討し実用可能な尺度として発表した。「生体肝ドナー quality of life 尺度の開発および信頼性と妥当性の検討（2012）」のSecound Publicationである。 著者：Morooka Y, Umeshita K, Taketomi A, Shirabe K, Maehara Y, Yamamoto M, Shimamura T, Oshita A, Kanno K, Ohdan H, Kawagishi N, Satomi S, Ogawa K, Hagiwara K, Nagano H. 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
23.新卒看護師が職場で働く中で辛いと感じる体験 （査読付）	共	2012年3月	大阪大学看護学雑誌 18(1), 25-31.	新卒看護師を対象として面接調査を実施し、職場で働く中で辛いと感じる経験を明らかにした、質的記述的研究である。卒業研究の論文発表であり、研究実施から論文作成に至る指導を行った。 著者：亀晃加，　師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、論文作成、すべての過程における指導
24.生体肝ドナー quality of life 尺度の開発および信頼性と妥当性の検討 （査読付）	共	2012年3月	移植 47(1), 67-74.	家族のために手術を受けたという生体肝移植ドナーに特有のQOL尺度を開発し信頼性と妥当性を検討し実用可能な尺度として発表した。対象は全国5大学で生体肝提供を行ったドナーである。各位論文テーマに関わる発表論文である。 著者：師岡友紀，梅下浩司，武冨紹信，前原喜彦，山本真由美，嶋村剛，大下彰彦，菅野啓子，大段秀樹，川岸直樹，里見進，小川馨，萩原邦子，永野浩昭 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
25.生体肝移植ドナーの術後quality of lifeを構成する要素 （査読付）	共	2011年6月	移植 46(2-3), 147-153.	家族のために手術を受けたという生体肝移植ドナーに特有のQOLの構成要素を検討した。生体肝移植ドナーを対象とした面接調査に基づく、質的記述的研究である。 著者：師岡友紀，梅下浩司，萩原邦子，小川馨 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、論文作成
26.救命センター看護師指導による簡易型BLS演習における看護学生への影響～臨床と大学とのユニフィケーションによる効果～ （査読付）	共	2011年3月	大阪大学看護学雑誌 17(1), 17-24.	学部生に対する簡易型一次救命処置演習を、臨床看護師と教員が協働して行い、その効果を明らかにした。大阪大学医学部附属病院救命救急センターの看護師との共同研究である。 著者：白井里佳，新開裕幸，呉聖人，山邉えり，田中博子，師岡友紀，池側均，瀬尾恵子 本人担当部分：研究を共同で統括するとともに、研究計画、実施、分析、論文作成すべての過程における助言

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
27.Extent of gastric resection impacts patient quality of life: the Dysfunction After Upper Gastrointestinal Surgery for Cancer (DAUGS32) scoring system (査読付)	共	2010年8月	Annals of Surgical Oncology 2011, 18(2), 314-20. doi: 10.1245/s10434-010-1290-y.	消化器手術後の患者のQOLに関して、術式との関連を検討した結果をまとめたものである。 著者：Nakamura M, Hosoya Y, Yano M, Doki Y, Miyashiro I, Kurashina K, Morooka Y, Kishi K, Lefor AT. 本人担当部分：研究計画の実施
28.看護学専攻大学生の自我同一性地位の諸相 （査読付）	共	2010年3月	大阪大学看護学雑誌 16(1), 9-17.	看護学生を対象として、アイデンティティについて質問紙調査を行い、その様相を明らかにした。心理学系の研究者との共同研究である。 著者：師岡友紀，室井みや，柴枝里子，小林珠実，福録恵子，清水安子，瀬戸奈津子，鈴木純恵，梅下浩司 本人担当部分：研究を共同で統括するとともに、研究計画、実施、分析、論文作成
29.看護学生に対し簡易型の一次救命処置を看護技術演習で行うことの有効性 （査読付）	共	2010年3月	大阪大学看護学雑誌 16(1), 139-47.	学部生に対する簡易型一次救命処置演習を行い、その効果を明らかにした。大阪大学医学部附属病院救命救急センターの看護師との共同研究である。 著者：新開裕幸，師岡友紀，白井里佳，呉聖人，山邉えり，田中博子，島袋正恵，池側均，京力深穂 本人担当部分：研究を共同で統括するとともに、研究計画、実施、分析、論文作成すべての過程における助言
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.患者主体の手術医療を考える 手術医療における患者と家族のエンパワメント	単	2018年10月	第40回日本手術医学会総会 東京都	パネルディスカッションのパネラーとして招待された。価値観の多様化の進む中、患者やその家族のエンパワメントは重要であることをふまえ、エンパワメントを概説する共に、手術医療において医療者の取り組めるエンパワメントについて、事例を紹介しながら提言した。 本人担当部分：講演全般
２．学会発表				
1.Literature review on issues in the use of healthcare services by foreign visitors in Japan	共	2023年3月	The 24th East Asian Forum of Nursing Scholars' conference, Tokyo, Japan	K Kimura, Y Morooka.
2.術後早期の婦人科がんサバイバーが自分らしく生きるための支援ニーズ	共	2021年6月	第26回日本緩和医療学会学術大会，横浜市	婦人科がん患者の術後の実態を明らかにした研究である。 著者：間城絵里奈，辰巳有紀子，師岡友紀，荒尾晴惠 本人担当部分：研究計画、分析、成果発表における助言
3.北摂地域の民間施設におけるAED(自動体外式除細動器)の管理状況の実態.	共	2020年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	卒業研究で取り組んだテーマの発表である。AEDを保管している民間施設の管理状況の実態を明らかにした。 著者：中井 千夏、師岡 友紀 本人担当部分：研究全般における指導助言
4.本邦の肝移植施設における生体肝ドナーの術後フォローアップの現状.	共	2020年11月	第56回日本移植学会総会	研究に協力し一部指導助言を行った修士論文の研究発表である。生体ドナーのフォロー状況を明らかにした。 発表者：野田 桃子、師岡 友紀、萩原 邦子、梅下 浩司 本人担当部分：研究計画、分析、成果発表における助言
5.日本で就労する中国人看護師のEnd-of-Lifeケアにおける困難.	共	2020年8月	緩和・支持・心のケア合同学術大会2020	日本で就労する中国人看護師の困難を明らかにした研究である。 発表者：張 明茜、荒尾 晴惠、師岡 友紀、辰巳 有紀子、市原 香織、青木 美和. 本人担当部分：研究計画、分析、成果発表における助言
6.手術療法を受けた婦人科がんサバイバーの退院1ヵ月後の支援ニーズの実態	共	2020年8月	緩和・支持・心のケア合同学術大会2020.	女性生殖器がん患者のニーズに関する実態調査である。 発表者：間城 絵里奈、師岡 友紀、辰巳有紀子、荒尾晴惠 本人担当部分：研究の立案、分析過程、成果発表時の助言

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
7.脳死とされうる状態の患者と家族に関わる看護師が抱える困難感と関連要因	共	2020年8月	緩和・支持・心のケア合同学術大会2020.	助成金を得て実施した調査の分析結果の発表である。脳死とされうる状態の患者の看護における困難の構造を明らかにした。 発表者：師岡 友紀、野村 倫子、荒尾 晴惠 本人担当部分：研究の統括
8.救急領域の終末期ケアにおいて脳死とされうる状態の患者と家族に関わる看護師が抱える困難.	共	2020年8月	緩和・支持・心のケア合同学術大会2020	主となり指導を行った修士論文の研究成果の発表である。脳死とされうる状態の患者の看護の特性を明らかにした。 発表者：野村 倫子、師岡 友紀、荒尾 晴惠 本人担当部部分：研究全般の指導
9.看護における要注意行為学習のための適応的プロセス知識構造化とその拡張	共	2020年6月9日～12日	2020年度人工知能学会全国大会（第34回）	共同研究を行っている看護師の術後観察場面の知識構造の特性をまとめた発表である。 発表者：中條 亘、來村 徳信、師岡 友紀、辰巳 有紀子、荒尾 晴惠、溝口 理一郎 本人担当部分：プログラム作成時の専門家の立場からの助言、発表時の助言
10.治療中の肺がん患者がもつ悩みの実態調査	共	2020年2月	第34回日本がん看護学会学術集会 東京	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部である。 高橋千穂，青木美和，南口陽子，畠山明子，市原香織，師岡友紀，辰巳有紀子，荒尾晴惠 本人担当部分：データ収集、成果発表時の助言
11.Survey on concerns of patients with lung cancer during treatment	共	2020年2月	The 3rd International Cancer Research Symposium for Oncology Professionals, 大阪	平成28年度大阪府がん患者状況調査の結果の一部をまとめたものである。 発表者：Chiho Takahashi, Miwa Aoki, Yoko Minamiguchi, Akiko Hatakeyama, Kaori Ichihara, Yuki Morooka, Yukiko Tatsumi, Harue Arao 本人担当部分：データ収集、分析への助言
12.What care did nurses provide for the families from legal brain death determination to organ donation surgery? ?A qualitative study	共	2020年2月	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, Japan.	指導を主となり行った修士論文の成果発表である。脳死下臓器提供における看護ケアに関して明らかにした。 発表者：Nomura M, Morooka Y, Arao H, 本人担当部分：研究計画、実施、分析、結果のまとめにおける指導助言
13.Coordinators' perception of difficulties faced by recipients, donors, and their families after living donor liver transplantation.	共	2020年2月	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Feb27-28, 2020. Osaka, Japan.	科研による研究の成果発表である。コーディネーターが考える生体肝移植ドナー、レシピエント、その家族の抱える問題を質的に明らかにした。 発表者：Morooka Y, Yoshimura Y, Hagiwara K, Yamamoto M, Umeshita K. 本人担当部分：研究統括
14.Clinical transplant coordinators' support to recipients, donors, and their families concerning their psychosocial problems ? qualitative study	共	2020年1月	The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars' conference, Jan10-11, 2020. Chiang Mai, Thailand.	科研による研究の成果発表である。レシピエント移植コーディネーターが生体肝移植ドナー、レシピエント、その家族にどのような支援を行っているかを質的に明らかにした。 発表者：Morooka Y, Yoshimura Y, Hagiwara K, Yamamoto M, Umeshita K. 本人担当部分：研究統括
15.What nursing care is provided to brain-dead patients from legal brain-death	共	2020年1月	The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars' conference	指導を主となり行った修士論文の成果発表である。脳死下臓器提供における看護ケアに関して明らかにした。 発表者：Nomura M, Morooka Y, Arao H, 本人担当部分：研究計画、実施、分析、結果のまとめにおける指導助言

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
determination to organ donation surgery? - A qualitative study			Chiang Mai, Thailand	
16.救急医療における終末期患者家族の代理意思決定に向けたプロセスでの看護支援	共	2019年11月	日本看護科学学会学術集会　金沢市	修士論文の成果発表研究である。救急医療における終末期患者家族の代理意思決定に向けた看護実践を明らかにした。 発表者：前中 夕紀，荒尾 晴惠，師岡 友紀，辰巳 有紀子 本人担当部分：研究計画や分析における助言
17.本邦の肝移植施設における生体肝ドナーに対する診療体制の実態	共	2019年9月	第55回日本移植学会総会　広島市	修士論文の作成における分担者として関わった研究の成果発表である。本邦の生体肝移植ドナーの診療体制を明らかにした。 発表者：野田桃子、師岡友紀、萩原邦子、梅下浩司 本人担当部分：研究実施における助言、分析発表時の助言
18.Actual situations with the knowledge of palliative care for cancer patients and related factors	共	2019年8月	The 13th Asia Pacific Hospice and Palliative Care Conference Surabaya, Indonesia	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表したものである。緩和ケアに関するがん患者の認識を明らかにした。 発表者：Harue Arao, Yuki Morooka, Akiko Hatakeyama, Yoko Minamiguchi, Miwa Aoki, Yukiko Tatsumi 本人担当部分：データ収集、分析
19.高校生の臓器提供意思表示の実態と関連要因	共	2019年8月	日本看護研究学会第45回学術集会大阪市	学部生の卒業論文の成果発表である。高校生に対して臓器提供に関する調査を実施し実態を明らかにした。 発表者：師岡友紀、湯本叶実、野村倫子、荒尾晴惠 本人担当部分：研究の実施の統括
20.通院中の乳がん患者家族への負担感と関連要因	共	2019年6月	第24回日本緩和医療学会学術大会横浜市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。がん患者を対象とした質問紙調査から乳がん患者の家族に対する負担感の実態を明らかにした。 発表者：青木美和、荒尾晴惠、畠山明子、南口陽子、辰巳有紀子、師岡友紀 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
21.救急領域の終末期ケアにおいて脳死下臓器提供の意思決定を行う家族への看護支援	共	2019年6月	第24回日本緩和医療学会学術大会横浜市	修士課程に在籍する学生の修士論文関連データを用いた分析結果である。主指導教員として関わった。救急領域の看護師を対象とした面接調査の結果から、脳死下臓器提供の意思決定を行う患者の家族への支援について質的記述的に明らかにした。 発表者：野村倫子，師岡友紀，荒尾晴恵 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程のおける指導助言
22.がんと診断された患者の緩和ケア関する認識の実態と関連要因	共	2019年6月	第24回日本緩和医療学会学術大会横浜市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。がん患者を対象とした質問紙調査から、がん患者の緩和ケアに関する認識の実態を明らかにした。 発表者：師岡友紀，荒尾晴恵，南口陽子，畠山明子，辰巳有紀子 本人担当部分：データ分析、抄録作成、発表
23.Survey on the information needs of patients with urologic cancer	共	2019年2月	The 2nd International Cancer Research Symposium for Oncology Professionals Osaka	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。泌尿器がん患者の情報へのニーズの実態を明らかにした。 発表者：Yasuyo Sugiura, Harue Arao, Miwa Aoki, Yoko Minamiguchi, Akiko Hatakeyama, Yukiko Tatsumi, Yuki Morooka 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
24.Self-perceived burden to their families in colorectal cancer patients during treatment and related factors	共	2019年2月	The 2nd International Cancer Research Symposium for Oncology Professionals Osaka	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。消化器がん患者の家族に対する負担感の実態を明らかにした。 発表者：Miwa Aoki, Harue Arao, Akiko Hatakeyama, Youko Minamiguchi, Yukiko Tatsumi, Yuki Morooka 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
25.泌尿器がん患者が求める情報ニーズと支援の検討	共	2019年2月	第33回日本がん看護学会学術集会 福岡市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。がん患者を対象とした調査から、泌尿器がん患者を抽出し、情報ニーズを明らかにした。 発表者：杉浦康代，荒尾晴惠，青木美和，南口陽子，畠山明子，辰巳有紀子，師岡友紀

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2．学会発表				
26. 大学生の一次救命処置に関する意識の実態	共	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会 松山市	本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言 学部生の卒業研究の学会発表である。大学生を対象とした一次救命処置の認識に関する質問紙調査の結果を発表した。 発表者：北濱生也，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
27. 救急看護認定看護師の考える脳死とされうる状態の患者の家族へのケアの実態と困難	共	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会 松山市	学部生の卒業研究の学会発表である。救急看護認定看護師を対象とした脳死とされうる状態の患者の家族のケアの実態と困難について質問紙調査の結果を発表した。 発表者：野村倫子，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
28. 生体肝提供手術後の脂肪肝に関する検討	共	2018年9月	第54回日本移植学会総会　東京都	生体肝移植ドナーの診療録をもとにした観察研究である。肝提供後の脂肪肝の発症の実態と関連する要因を明らかにした。 発表者：方聞，師岡友紀，野田桃子，江口英利，梅下浩司 本人担当部分：研究計画、データ収集分析
29. Self-perceived burden to their families in colorectal cancer patients during treatment and related factors（査読有）	共	2018年9月	International Conference on Cancer Nursing (ICCN) 2018 Auckland, New Zealand	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。消化器がん患者の家族に対する負担感の実態を明らかにした。 発表者：Miwa Aoki, Harue Arao, Akiko Hatakeyama, Youko Minamiguchi, Yukiko Tatsumi, Yuki Morooka 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
30. 外来化学療法中のがん患者の就労状況の実態調査	共	2018年7月	第16回日本臨床腫瘍学会学術集会 神戸市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。外来化学療法中のがん患者の家族に対する負担感の実態を明らかにした。 発表者：青木美和，荒尾晴恵，畠山明子，南口陽子，辰巳有紀子，師岡友紀 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
31. がん診断後の患者の就労状況の実態と個人属性による差異	共	2018年6月	第23回日本緩和医療学会学術大会 神戸市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析発表した。がんと診断された患者の就業状況の実態を明らかにした。 発表者：師岡友紀，荒尾晴恵，南口陽子，畠山明子，辰巳有紀子 本人担当部分：データ分析、抄録作成、発表
32. がん診療連携拠点病院におけるがん患者の情報ニーズの世代差	共	2018年6月	第23回日本緩和医療学会学術大会 神戸市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。がん患者の情報に対するニーズの実態と世代間の差違について明らかにした。 発表者：辰巳有紀子，荒尾晴恵，畠山明子，南口陽子，師岡友紀 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
33. 発達障害特性のある看護学生への合理的配慮の実態 ―実習担当教員へのアンケート調査から―	共	2018年3月	日本発達心理学会第29回大会　仙台市	研究費を獲得し、大阪大学キャンパスライフ健康支援センターの教員と共同で行った研究の一部である。看護教員を対象とした調査において、発達障害、またはその傾向のある看護学生に対する合理的配慮の実態を明らかにした。 発表者：望月直人，師岡友紀，荒尾晴恵 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、抄録作成時の助言
34. 外来化学療法中のがん患者の家族への負担感の実態とその要因	共	2018年2月	第32回日本がん看護学会学術集会 千葉市	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析し発表した。がんと診断され外来化学療法中の患者の家族に対する負担感の実態を明らかにした。 発表者：青木 美和，荒尾 晴恵，南口 陽子，畠山 明子，師岡 友紀，辰巳 有紀子 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
35. 発達障害学生に対する合理的配慮とは	共	2017年12月	第37回日本看護科学学会学術集会 仙台市	研究費を獲得し、大阪大学キャンパスライフ健康支援センターの教員と共同で行った研究の一部である。発達障害、またはその傾向のある看護学生に対する合理的配慮に関する交流集会の運営を統括するとともに、発表者の一人として調査結果を報告し、聴衆と意見交換を行った。 発表者：師岡友紀，望月直人，荒尾晴恵 本人担当部分：研究の統括、実施、分析、抄録作成、発表
36. 一般人の鎮痛剤使用	共	2017年12月	第37回日本看護科	学部生の卒業研究の学会発表である。一般人を対象として鎮痛剤の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の実態と影響を与える要因			学学会学術集会 仙台市	使用の実態を明らかにするとども、使用の有無に関連する要因を検討した。 発表者：大橋 李好，師岡 友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
37.Information Needs of Cancer Patients on Outpatient Chemotherapy: Second Report	共	2017年10月	TNMC&WANS International Nursing Research Conference Bangkok	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析発表した。外来化学療法中の患者の情報ニーズに関して明らかにした研究である。 発表者：Akiko HATAKEYAMA, Harue ARAO, Yukiko TATSUMI, Yoko MINAMIGUCHI,Yuki MOROOKA 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
38.生体肝ドナーが肝提供後に子どもを持つことの思いと影響要因	共	2017年9月	第53回日本移植学会総会 旭川市	科研分担者としての研究である。生体肝ドナーが子供を持つ際に感じる思いを、面接調査の結果を質的記述的に分析して明らかにした。 発表者：吉村弥須子，梅下浩司，久保正二， 師岡友紀，萩原邦子 本人担当部分：分析、抄録への助言
39.生体肝ドナーの提供手術後の外来受診の実態と関連要因について	共	2017年9月	第53回日本移植学会総会 旭川市	生体肝移植ドナーの診療録を分析した結果の発表である。外来受診の実態を明らかにしてドナーフォローアップ上の課題を明らかにした。 発表者：野田 桃子，師岡 友紀，梅下 浩司 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
40.一般人の補助人工心臓に関する認識の現状	共	2017年9月	第14回日本循環器看護学会学術集会 徳島市	学部生の卒業研究の学会発表である。一般人を対象とした質問紙調査を行い、補助人工心臓に対してどのように認識を抱いているか明らかにした。 発表者：下江花歩，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
41.Survey on Cancer Treatment Information Needs of Patients with Pancreatic Cancer	共	2017年9月	3rd Asia Oncology Nursing Society Conference 北京	平成28年度大阪府がん患者状況調査の一部を分析発表した。泌尿器がん患者の情報ニーズを明らかにした。 発表者：Harue ARAO, Yukiko TATSUMI, Yoko MINAMIGUCHI, Akiko HATAKEYAMA, Yuki MOROOKA 本人担当部分：データ分析、抄録作成時の助言
42.生体肝移植ドナーの術後1年目受診時における消化器症状および創の状態について	共	2017年6月	第35回日本肝移植研究会　大阪市	生体肝ドナーの診療録を調査し、術後1年目の時点で、消化器症状および創関連の症状をどの程度感じているか、実態を明らかにした。 発表者：武内 紗千，師岡 友紀，野田 桃子，梅下 浩司 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導助言
43.肝提供後の脂肪肝発症の有無に関連する要因について	共	2017年6月	第35回日本肝移植研究会　大阪市	学部生の卒業研究の学会発表である。生体肝移植ドナーの診療録をもとにした調査で、脂肪肝発症の実態と関連要因について明らかにした。 野田 桃子，師岡 友紀，梅下 浩司 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
44.新卒看護師が感じる看護基礎教育と看護実践現場とのギャップ	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会 東京都	学部生の卒業研究の学会発表である。新卒看護師を対象として看護基礎教育と実践現場とのギャップに関する質問紙調査を行い、実態を明らかにした。 発表者：古屋葵，師岡友紀，松岡彩世子，山下亮子，荒尾晴惠 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
45.経験知を科学する看護に活かすオントロジー	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会 東京都	大阪大学産業科学研究所の教員との共同研究である。術後患者の観察における看護師の知識構造を明らかにすることを目指した教材についての交流集会である。交流集会の企画者として運営するとともに、教材開発者の一人として発表を行った。 発表者：師岡友紀，來村徳信，荒尾晴惠，山下亮子，笹嶋宗彦，溝口理一郎 本人担当部分：研究の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
46.病棟から手術室へ異動となった看護師が	共	2015年10月	第37回日本手術医学会　大阪市	修士課程在籍学生の修士論文の一部の発表である。病棟から手術室へ異動となった手術室看護師が抱える困難について、面接調査を通

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
抱える困難と支援方法についての検討				して質的記述的に明らかにした。 発表者：小野恵理佳，安藤昌代，師岡友紀，南正人，梅下浩司 本人担当分：分析過程の助言
47.手術看護認定看護師の考える手術看護のやりがいについて	共	2015年10月	第37回日本手術医学会総会　大阪市	学部生の卒業研究の学会発表である。手術看護認定看護師を対象として、手術看護のやりがいを明らかにするとともに、背景要因との関連性を検討した。 発表者：藤田 安沙貴，師岡 友紀，梅下 浩司 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
48.人工股関節置換術後の日常生活動作獲得時期における転倒転落のリスク評価と予防策についての検討	共	2015年10月	第42回日本股関節学会学術集会　大阪市	大阪大学医学部附属病院の看護師との共同研究である。人工股関節置換術を受けた患者の日常生活における転倒転落リスクを評価した。 発表者：藤井彩子，鎌谷明美，柳川千里，師岡友紀，上杉裕子，高尾正樹，坂井孝司，西井孝，菅野伸彦 本人担当分：研究計画、分析および抄録作成時の助言
49.両側同時人工股関節置換術後の看護における課題の検討	共	2015年10月	第42回日本股関節学会学術集会　大阪市	大阪大学医学部附属病院の看護師との共同研究である。人工股関節置換術のうち、両側同時に行った場合を片側ずつの場合と比較し、看護における配慮事項を検討した。 発表者：鳥羽恵理奈，藤井彩子，鎌谷明美，柳川千里，師岡友紀，上杉裕子，高尾正樹，坂井孝司，西井孝，菅野伸彦 本人担当部分：研究計画、分析および抄録作成
50.タブレット端末を用いた自己学習教育プログラムの術後観察演習への導入と評価	共	2014年12月	第34回日本看護科学学会学術集会　名古屋市	大阪大学産業科学研究所の教員との共同研究である。タブレット端末のアプリを開発し、自己学習での使用を試みた結果についてまとめた。 発表者：山下亮子，師岡友紀，荒尾晴惠，笹嶋宗彦，西村悟史，來村徳信，溝口理一郎 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分
51.看護師が捉える脳血管障害患者の心理とその援助について	共	2014年12月	第34回日本看護科学学会学術集会　名古屋市	学部生の卒業研究の学会発表である。脳神経外科、神経内科の看護師を対象として面接調査を行い、脳血管障害の患者の心理過程をどのように捉えているか質的記述的に分析した 発表者：米倉夏実，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
52.タブレット端末を用いた自己学習教育プログラムの臨地実習への導入と評価	共	2014年12月	第34回日本看護科学学会学術集会　名古屋市	大阪大学産業科学研究所の教員との共同研究である。タブレット端末のアプリを開発し、臨地実習での使用を試みた結果についてまとめた。 発表者：師岡友紀，荒尾晴惠，山下亮子，笹嶋宗彦，西村悟史，來村徳信，溝口理一郎 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
53.生体肝移植ドナーの移植手術に対する思い	共	2014年10月	第50回日本移植学会総会　熊本市	生体肝移植ドナーを対象とした調査の自由記述部分の分析結果である。ドナーが抱く思いを質的帰納的に分析した。 発表者：師岡 友紀，梅下 浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
54.周手術期看護演習で術後患者シミュレーションスーツを使用した学生による演習評価	共	2013年12月	第33回日本看護科学学会学術集会　大阪市	術後観察演習において使用する模擬患者用の術後スーツを開発し、その効果を評価した研究である。 発表者：山下亮子，師岡友紀，荒尾晴惠，小林珠実，福録恵子，瀬戸奈津子，井上佳代，清水 安子 本人担当部分：研究の計画、実施全般
55.タブレット端末を用いた術後観察技術教育導入に向けてのusabilityの検討	共	2013年12月	第33回日本看護科学学会学術集会　大阪市	大阪大学産業科学研究所の教員との共同研究である。タブレット端末のアプリを開発し、学生を対象とした予備調査を行い、その有用性を検討した。 発表者：師岡友紀，荒尾晴惠，山下亮子，笹嶋宗彦，西村悟史，來村徳信，溝口理一郎 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
56.Thoughts on transplantation	共	2013年9月	The 13th Congress of the	第49回日本移植学会との同日開催の国際学会で、同演題を英語でも発表した。そのため「生体肝移植ドナーの移植手術に対する思い

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
surgery by living liver donors			Asian Society of transplantation Kyoto	(2013)」の英語版となっている。 発表者：Yuki Morooka, Koji Umeshita 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
57.生体ドナーに対する意思決定支援体制について　現状と課題　生体肝移植ドナーの移植手術に対する思い	共	2013年9月	第49回日本移植学会総会　京都市	生体肝移植ドナーを対象とした調査の自由記述部分の分析結果である。質的記述的に分析した結果をシンポジウムで発表した。 発表者：師岡 友紀，梅下 浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
58.脳死臓器提供に関する家族内の意思共有の程度および関連要因について	共	2013年9月	第49回日本移植学会総会　京都市	学部生の卒業研究の学会発表である。学生を対象とした脳死臓器提供に関する調査を行い、家族との意志共有の実態と関連要因について検討した。 発表者：田村昇子，師岡友紀，梅下浩司 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
59.４年制大学看護学生の就職先選択の決定因となる情報	共	2013年3月	第26回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会 和歌山市	学部生の卒業研究の学会発表である。看護学生を対象とした質問紙調査であり、就職先となる進路決定における要因を検討した。 発表者：神渡明日香，師岡友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
60.整体肝移植ドナーの長期QOLについて	共	2012年9月	第13回日本QOL学会　東京都	著者らで開発した生体肝移植ドナーのQOL尺度を用いた結果報告である。尺度の特性を検討するとともに、関連要因を見出した。 発表者：師岡 友紀，梅下 浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
61.救急看護認定看護師の理想と実際の差異について	共	2012年9月	第16回日本救急看護学会学術集会 大阪市	学部生の卒業研究の学会発表である。救急看護認定看護師を対象とした質問紙調査を行い、看護における理想と実際の際を明らかにした。 発表者：志田 瑶，師岡 友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
62.Effectiveness of an improved simulation exercise in postoperative observation for nursing students	共	2012年7月	The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery Kobe	著者らで開発した模擬患者用の術後スーツに関して、学生を対象とした調査を行い評価を得た研究の報告である。 発表者：Yuki Morooka, Harue Arao, Tamami Kobayashi, Sachie Takeuchi, Yasuko Shimizu, Natsuko Seto, Keiko Fukuroku, Hiromi Nagayama 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
63.Learning Efficacy after Introduction of Simulation Suits for Postoperative Patient Care : a comparative study of the different length of time after introductive practice	共	2012年7月	The 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centers for Nursing and Midwifery Kob	著者らで開発した術後スーツに関して、学生を対象とした調査を行い評価を得た研究の報告である。 発表者：Sachie Takeuchi, Harue Arao, Yuki Morooka, Keiko Fukuroku, Tamami Kobayashi, Hiromi Nagayama, Natsuko Seto, Yasuko Shimizu 本人担当部分：研究実施とデータ収集
64.看護師による看護学生への簡易型BLS講習の有効性についての検討ー演習前、演習直後、半年後、一年後の比較ー	共	2011年9月	第38回日本集中治療医学会学術集会　横浜市	大阪大学医学部附属病院の看護師との共同研究である。共同して看護学生に対して一次救命処置演習を実施し、その効果を縦断的に調査し評価した。 発表者：山邊えり，新開裕幸，白井里佳，田中博子，師岡友紀 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析指導助言、抄録指導助言

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
65.生体肝移植ドナーの調査研究に対する思い	共	2011年9月	第42回日本看護学会　大阪市	生体肝移植ドナーを対象とした質問紙調査のうち、「調査されること」に関する思いをが記述された自由記述欄の内容を分析した。 発表者：師岡友紀，山本真由美，萩原邦子，小川馨，嶋村剛，永野浩昭，梅下浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
66.成人間生体肝移植ドナーの術後長期QOLについて　小児に対する生体肝移植との比較から	共	2011年7月	第29回日本肝移植研究会 仙台市	生体肝移植ドナーを対象とした質問紙調査のうち、成人間移植と小児への移植の場合を比較しQOLにおける差異をを明らかにした。 発表者：師岡友紀 梅下浩司，小川 馨，萩原邦子，永野浩昭 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
67..新卒看護師が職場で働く中で辛いと感じる体験	共	2010年12月	第30回日本看護科学学会学術集会 札幌市	卒業研究の学会発表である。新卒看護師を対象とした面接調査を実施し、「職場で働く中で辛いと感じる経験」を明らかにした。 発表者：亀晃加，師岡友紀，小林珠実 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
68.救命センター看護師による看護基礎教育における簡易型一次救命処置演習の効果　質的記述的分析より	共	2010年12月	第30回日本看護科学学会学術集会 札幌市	大阪大学医学部附属病院の看護師との共同研究である。共同して看護学生に対して一次救命処置演習を実施し、その効果を評価した。本研究は、学生の記した自由記述欄に関する分析結果の発表である。 発表者：田中博子，新開裕幸，白井里佳，山邊えり，師岡友紀 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析指導助言、抄録指導助言
69.看護技術演習における簡易型一次救命処置の教育効果	共	2010年12月	第30回日本看護科学学会学術集会 札幌市	大阪大学医学部附属病院の看護師との共同研究である。共同して看護学生に対して一次救命処置演習を実施し、その直後の効果を評価した。 発表者：新開裕幸，白井里佳，山邊えり，田中博子，師岡友紀 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析指導助言、抄録指導助言
70.生体肝移植ドナーの術後QOLを構成する要素	共	2010年12月	近畿肝移植検討会 大阪市	依頼口演である。家族のために手術を受けたという特異的な状況にある生体肝移植ドナーの術後のQOLは、どのような要素により構成されるかについて発表した。 発表者：師岡友紀，萩原邦子，小川馨，永野浩昭，梅下浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
71.生体肝移植ドナーの術後QOLを構成する要素	共	2010年10月	第46回日本移植学会総会	家族のために手術を受けたという特異的な状況にある生体肝移植ドナーの術後のQOLは、どのような要素により構成されるかについて発表した。 発表者：師岡友紀，梅下浩司，萩原邦子，小川馨 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
72.一次救命処置に対する自信と技術の関連性および経時的変化	共	2010年7月	日本看護学教育学会第20回学術集会 大阪市	学部生の卒業研究の学会発表である。一次救命処置に対する自信と実際の技術力との関連性が、経過を経てどのように変化するか検討した。 発表者：太田 祐理花 師岡 友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
73.一般大学生における一次救命処置シミュレーション時の「実技」と「不安および過去の経験」との関連	共	2010年7月	日本看護学教育学会第20回学術集会 大阪市	卒業研究の学会発表である。一般大学生が一次救命処置技術を実践する際の不安と過去の経験との関連を検討したものである。 発表者：藤田 真歩，師岡 友紀 本人担当部分：研究の計画、実施、分析、抄録作成、発表、すべての過程における指導
74.新卒看護師における基礎教育と臨床との「ギャップ」とその経時的変化	共	2010年7月	日本看護学教育学会第20回学術集会 大阪市	新卒看護師を対象とした質問紙調査の結果である。基礎教育と臨床とのギャップが就職後どのように変化するか縦断的に調査した研究である。 発表者：師岡友紀，鈴木純恵，谷浦葉子，小林珠実，福録恵子，梅下浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				表
75.看護基礎教育段階での簡易型一次救命処置演習の効果について	共	2009年11月	第11回日本救急看護学会学術集会 福岡市	大阪大学医学部附属病院の看護師との共同研究である。共同して看護学生に対して簡易型一次救命処置演習を実施し、その効果評価した。 発表者：白井里佳，師岡友紀，京力深穂，新開裕幸，呉聖人，山辺えり，田中博子 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析指導助言、抄録指導助言
76.看護学を専攻する大学生の自我同一性地位と専攻領域選択に伴う認識に関する研究(第1報)	共	2009年9月	日本看護学教育学会第19回学術集会 北見市	看護学生を対象としたアイデンティティに関する質問紙調査を行い、専攻領域に伴う認識との関連性と検討した。心理学系研究者との共同研究である。 発表者：小林珠実，師岡友紀，福録恵子，清水安子，瀬戸奈津子，室井みや，梅下浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、
77.看護学を専攻する大学生の自我同一性と専攻領域選択に関する研究(第2報)	共	2009年9月	日本看護学教育学会第19回学術集会 北見市	看護学生を対象としたアイデンティティに関する質問紙調査を行い、専攻領域との関連性を検討した。心理学系の研究者との共同研究である。 発表者：福録恵子，師岡友紀，瀬戸奈津子，小林珠実，梅下浩司，室井みや，清水安子 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、
78.新卒看護師における「看護技術の影響」と臨地実習時の看護技術経験の意義」に関する認識の変化	共	2008年12月	第28回日本看護科学学会学術集会 福岡市	大阪大学医学部附属病院看護師との共同研究である。臨地実習時に患者に看護技術を実践することの影響を質問紙により調査し、その意義を検討した。 発表者：師岡友紀，谷浦葉子，三木佐登美，小林珠実，福録恵子，鈴木純恵，梅下浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
79.大学生における自我同一性の形成と進路選択の関連	共	2008年9月	日本心理学会第72回大会　札幌市	心理学系の研究者との共同研究である。看護系の学生とそれ以外の学生のアイデンティティを調査し、比較し、進路選択との関連性を検討した。 発表者：室井みや，師岡友紀 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施
80.学生時の身体侵襲を伴う看護技術経験の違いによる就職後の意識の差異	共	2008年8月	日本看護学教育学会第18回学術集会 つくば市	大阪大学医学部附属病院看護師との共同研究である。臨地実習時に患者に身体侵襲を伴う看護技術を実践することの影響を質問紙により調査し、その意義を検討した。 発表者：師岡友紀，谷浦葉子，三木佐登美，小林珠実，福録恵子，鈴木純恵，梅下浩司 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
81.臨地実習時の身体侵襲を伴う看護技術の経験について(2)　新卒看護師の臨地実習に対する意向の分析から	共	2007年12月	第27回日本看護科学学会学術集会 東京都	大阪大学医学部附属病院看護師との共同研究である。臨地実習時に患者に身体侵襲を伴う看護技術を実践することの影響を質問紙により調査し、その意義を検討した。 発表者：師岡友紀，谷浦葉子，三木佐登美，小林珠実，福録恵子，鈴木純恵 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
82.臨地実習時の身体侵襲を伴う看護技術の経験について(1)　経験状況と到達度評価の関連性の検討	共	2007年12月	第27回日本看護科学学会学術集会 東京都	大阪大学医学部附属病院看護師との共同研究である。臨地実習時に患者に身体侵襲を伴う看護技術を実践することの影響を質問紙により調査し、その意義を検討した。発表者：師岡友紀，谷浦葉子，三木佐登美，小林珠実，福録恵子，鈴木純恵 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
83.臨床看護師との共同教育による一次救命処置技術の演習効果について	共	2007年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会 福岡市	臨床看護師と共同で教育を行うことによる効果を質問紙により調査し、その意義を検討した。 発表者：師岡友紀，城戸良弘，新開裕幸，松岡真矢，森久保裕，福井良子 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
84.術後急性期における	共	2007年6月	第3回日本クリティ	発表者：小野博史，田口豊恵，表八洋子，森田輝代，河村公子，師

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
高照度光照射の有用性			カルケア看護学会学術集会　福岡市	岡友紀，宮田雅子，城戸良弘 本人担当部分：不明
85.除細動を含む一次救命処置技術の体験型演習の効果について	共	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会 神戸市	看護学生を対象として一次救命処置技術演習を実施し、その効果を評価した研究である。 発表者：師岡 友紀，城戸 良弘 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
86.退院時における患者のInformation Needs	単	2005年9月	日本健康心理学会第18回大会・日本心理医療諸学会連合第18回学術集会 神戸市	修士論文の学会発表である。 本人担当部分：研究全体の統括、計画、実施、分析、抄録作成、発表
３．総説				
1.生体肝ドナーの心理的側面に関する質的研究 移植に関する認識と経験に焦点をあて	単	2015年9月	今日の移植 28(4)，p499-506.	依頼原稿。生体肝移植ドナーの心理的側面に関する質的研究に関して、国内外の文献検討を行い、得られた知見（研究手法や認識や経験、心理状況の概観等）を整理し考察した。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.生体肝移植ドナーの方々の移植手術に対する思い	単	2015年3月	今日の移植 28(1)，p4.	依頼原稿。生体肝移植ドナーの抱く思いつについてまとめたエッセイである。 本人担当部分：執筆全般
６．研究費の取得状況				
1.ICU退室後の患者における遷延性術後痛のリスク因子に関する研究	共	2023年4月～2025年度	科学研究費補助金 基盤研究（C）	研究分担者（研究代表者：野田桃子）
2.移植看護とがん看護の融合による肝移植適応のある肝がん患者への看護の開発	共	2022年4月～2024年度	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)	研究代表者：師岡友紀
3.脳死とされうる状態の患者とその家族の看護ケア評価指標の開発	単	2021年8月	武庫川女子大学「令和3年度ダイバーシティ推進センター女性研究者賞」	研究代表者：師岡友紀
4.コンテキストに依存する概念変容モデル化による目的志向プロセスデザインの深化	共	2021年4月～2024年度	文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（B）	研究分担者（研究代表者：來村徳信）
5.脳死とされうる状態の患者に関わる看護師の支援と困難	単	2018年2月～2020年1月	上廣倫理財団研究助成	研究代表者：師岡友紀
6.看護系大学における発達障害（傾向）学生に対する合理的配慮について	単	2016年10月～2017年3月	大阪大学「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業　特に優れた女性教員研究支援	研究代表者：師岡友紀
7.生体肝移植ドナーの術後支援に向けた相談システムの開発と評価	共	2015年4月～2022年3月	文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）	研究代表者：師岡友紀 研究分担者：梅下浩司、吉村弥須子
8.生体肝移植ドナーの妊娠・出産における	共	2015年4月～2017年3月	文部科学省科学研究費補助金　基盤	研究分担者（研究代表者：吉村弥須子）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
体験と医療支援に関する研究			研究（C）	
9.生体肝移植のレシピエント、ドナー、家族の抱える問題と術後支援の検討	共	2012年4月～2015年3月	文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）	研究代表者：師岡友紀 研究分担者：梅下浩司
10.生体肝ドナーQOL尺度の開発	単	2009年4月～2012年3月	文部科学省科学研究費補助金　若手研究（B）	研究代表者：師岡友紀
11.新卒臨床看護師の視点による学生臨地実習時に看護技術を体験する意義	単	2007年4月～2009年3月	科学研究費補助金 若手研究（B）	研究代表者：師岡友紀

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年10月1日～2025年9月30日	日本看護学会和文誌専任査読委員
2.2023年4月～2025年3月	大阪府看護協会クリティカルケア認定看護師教育課程入試委員
3.2022年12月1日2026年11月30日	日本移植・再生医療看護学会セミナー委員
4.2021年7月16日～2023年6月	日本看護科学学会和文誌編集委員会委員
5.2021年6月21日～2021年8月27日	第41回日本看護科学学会学術集会　一般演題口演（日本語）査読委員
6.2020年7月～2020年12月	第40回日本看護科学学会学術集会　一般演題査読委員および一般演題座長
7.2020年1月20日～2020年7月31日	第51回日本看護学会－看護管理－学術集会　看護管理・急性期看護・慢性期看護　抄録選考委員
8.2019年7月～2021年6月	日本看護科学学会和文誌編集委員会委員
9.2019年4月～2023年3月	大阪府看護協会クリティカルケア認定看護師教育課程入試委員
10.2018年11月～現在	日本移植・再生医療看護学会広報委員
11.2018年11月～現在	日本移植・再生医療看護学会評議員
12.2018年9月～2019年6月	第24回日本緩和医療学会事務局ワーキング委員
13.2017年	第37回日本看護科学学会学術集会口演座長
14.2016年	第36回日本看護科学学会学術集会一般演題査読委員
15.2015年9月～2019年9月	日本看護科学学会和文誌専任査読委員
16.2015年	第42回日本股関節学会学術集会プログラム実行委員
17.2013年	第10回日本移植・再生医療看護学会企画委員
18.2013年	第33回日本看護科学学会学術集会実行委員
19.2012年4月～2012年12月	大阪府看護協会脳卒中リハビリテーション認定看護師教育課程入試委員
20.2011年8月～2012年12月	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程入試委員
21.2010年	日本看護学教育学会第20回学術集会実行委員
22.2008年4月～現在	寿会富永病院　非常勤講師
23.2006年	第26回日本看護科学学会学術集会実行委員